



Russell Academy

ラッセルが教える“資産運用のつぼ”

バランス型ファンド、ってどうやって選ぶの？

最近、実に様々なバランス型ファンドが提供されるようになってきました。一見したところ、複数の資産が含まれているという点において、似ているようにも見えるのですが、実際はいろいろ特性があります。バランス型商品を選ぶ際のポイントをまとめてみました。

前回は分散投資の効用についてお話をしました。「すべての卵を一つの籠に盛るな」と言われますが、元本が確実でないものに投資する以上、広く分散することでリスク低減を図ることは重要です。ただ、何をどのように分散すればいいのかといった、具体的な資産配分を決めることはそれほど易しくはないため、その解決方法としてバランス型ファンドへの投資をご紹介しました。

バランス型ファンドは新聞等でも最近良く目にし、今ちょっとしたブームになっています。購入できる商品数も増えているようですが、どの商品がいいのか選択することは難しそうです。今日は、そういったバランス型ファンドを選ぶ際のポイントについてお話したいと思います。

どんな資産に投資しているのか

まず、最初のポイントはここでしょう。基本的には、投資対象の資産が多い方が分散効果は高いと言えます。単に資産の数の合計の数値を比較しても、実はあまり意味がありません。例えば、下記の例を見てください。バランス型ファンドの説明に、「以下の資産に投資します」という説明があったとします。

(A) 外国株式、国内株式、国内債券

(B) 米国株式、欧州株式、アジア株式、エマージング株式、国内株式、国内債券

単純に投資対象の資産の数を比較すると、(A)は3つに対し(B)は6つとなり、(B)の方が分散が働いているようにも見えます。しかし、(A)で言うところの「外国株式」は「米国株式」「欧州株式」「アジア株式」(あるいは「エマージング株式」も加える)の総称であって、実際には(A)も(B)と同じ地域の株式に投資している、つまり実は呼び方が違うだけで、同じような運用を行っているに過ぎない、とも言えます。このように、投資対象がいかに幅広いかを比較するには、実質的な意味を把握した上で比較検討する必要があります。

資産配分の割合はどのように決めたのか

上記でお話しましたように、資産の配分比率の決定は難しく、慎重を期する必要があります。あるバランス型ファンドは、こういった根拠をもってその配分比率を決めたのか、これは投資を検討する上で重要なポイントです。例えば、為替ヘッジを行わない外貨建て資産の割合が半分以上を占めるバランス型ファンドがありますが、為替の変動に大きく影響を受ける可能性があることを念頭においた方がいいでしょう。また、資産配分比率や投資対象となる資産が将来変わる可能性があるのかどうかについても、確認しておく必要があるでしょう。





その資産配分は自分にとって適切と言えるのか

投資家によって、多少リスクをとってでも高いリターンを狙いたい人、リターンはある程度低くていいけれどもリスクは抑えたい人など、運用の目的は様々です。バランス型ファンドを選択する際には、資産の配分比率が皆様の求めるリスク・リターンの水準に応じたものとなっているのか、確認する必要があります。一つの目安として、バランス型ファンドに含まれる株式の配分比率を全て足し上げた値、即ち株式配分の比率をファンド間で横並びに比較すると、ちょっとした参考になりそうです。そういう意味では、投資家の好みに合わせて複数の異なる組み合わせを提供しているバランス型ファンドは、ある意味で選択がしやすいのかもしれませんが。

各資産はどのように運用されているのか

次に、各資産の運用の中身についてですが、まず確認すべきことは、各資産の運用がパッシブ（インデックス）運用、即ち市場並みの収益を目指しているのか、それともアクティブ運用、即ち市場平均以上の収益を目指すのか、どちらの運用となっているのかという点です。パッシブ運用の場合、運用会社によってあまり大きな差は出ませんが、それでも本当に市場に連動した動きをするのか、過去の実績を確認した方がいいでしょう。この場合、市場平均を上回っているからといって、必ずしもいい結果という訳ではありません。パッシブファンドは、本来的に市場の動きとの乖離を極力小さくすることを目指していますので、大きく上回っている場合はむしろ減点評価とも考えられます。

一方で、アクティブ・ファンドの場合は、商品によって収益にかなりの格差が生じる可能性があるため、いかに高い収益を上げる商品を選別するかがとても重要なポイントです。最近のバランス型ファンドを見ると、数多くの投資商品を調査し、その中から優秀な商品を組み入れている商品が多いようですが、こうした個々の商品を選ぶ目が本当に確かなものかの見極めが大切です（但し、実はこれが大変難しい作業ではあるのですが。個々の商品の選び方については、当シリーズ#1「投信ってどうやって選ぶの？」をご参照ください）。

バランス型ファンドへの投資はある程度まとまった資産で

そもそも資産配分というものは、“投資家の有する資産全体の内、どの資産に、どのくらい投資することが適切か”、という視点で考える必要があります。ですので、例えば“保有する資産全体の1%だけをバランス型ファンドに投資して、残りは全て株式や預金のみという場合、全体で見ると、適切な配分とは言い難い”、というケースが往々にして見られます。バランス型ファンドは、資産運用のコアとして、資産全体の中である程度まとまった割合を投資して初めてその効果が期待できるとも言えるでしょう。また、バランス型ファンドに継続的に積み立てていくという方法も、その人に適した投資が継続して行われるという意味において、いいアイデアかもしれません。もちろん、バランス型であれば何でもよいという訳ではなく、自分にあったリスク・リターンの商品を選ぶ必要があることは言うまでもありません。

あなたもバランス型ファンドをうまく利用して、ご自身の目的にあった、長期的に安定したリターンの確保を狙ってみてはいかがでしょうか？

発行日：2007年2月6日



◎ご留意いただきたい事項

•本資料はラッセル・インベストメント証券投信投資顧問株式会社が投資に関する一般的情報の提供を目的として作成したものであり、特定の運用商品の推奨等の投資勧誘を目的としたものではありません。また金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

•投資信託は、株式および公社債等値動きのある証券に投資しますので、組入株式や組入公社債等の価格の下落ならびにそれらの発行会社の倒産または財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、これらに加え外貨建資産を保有する場合、外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、基準価額が下落し損失を被ることがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客様が負います。

•リスクは上記に限定されるものではありません。投資信託の取得のお申し込みにあたっては、必ず当該商品の投資信託説明書(目論見書)を販売会社でお受け取りになり、「投資リスクおよび留意点」等、内容をご確認の上、ご自身でご判断下さい。

•投資信託には、「お申し込み時」、「ご換金時」、「保有期間中」にご負担いただく手数料等の諸費用が発生します。投資信託の取得のお申し込みにあたっては、必ず当該商品の投資信託説明書(目論見書)を販売会社でお受け取りになり、「手数料および税金」等、内容をご確認の上、ご自身でご判断下さい。

•投資信託は、預金、保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

•金融商品取引業者以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

•当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。

•当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

Copyright © 2007. Frank Russell Company. All rights reserved.

当資料中「ラッセル・インベストメント・グループ」及び「ラッセル」は、フランク・ラッセル・カンパニー及びその子会社等の総称です。

ラッセルによる事前の書面による許可がない限り、資料の全部又は一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮下さい。